

株式会社渡辺ビニール化学工業所

溶接の内製化を実現し、提案型営業を推進

アーク溶接機とスポット溶接機を導入



樹脂コーティング製品を主力に、自動車・建設機械業界で実績

株式会社渡辺ビニール化学工業所は、大正6年から工業用ゴム製品の製造を手がけていた渡辺ゴム工業を前身とする。戦時中の閉鎖期間を経て、昭和25年に渡辺ビニール化学工業所として再興し、ビニールホースの製造を開始。42年に金属プレス部門を立ち上げ、49年に株式会社に改組、56年に和気工場を建設した。同社の主力製品は金属プレス部品に樹脂をコーティングした製品で、クリップ・クランプ、レバー・シャフト、キャップ・カバーなどがある。接触・振動による金属音の発生防止や被覆の損傷防止などを目的に、自動車・建設用機械に使用される。樹脂コーティング

は、用途に応じた樹脂材質の選定、密着性、機能発揮に必要な厚みを生むための樹脂浴温度の制御、ディッピング条件の設定など、高度な技術を要する。金属プレス加工と樹脂コーティング加工の複合技術を優位性に、自動車・建設機械業界への長年にわたる納入実績を持つ。製品を取り巻く環境に対応するため、同社では外注している溶接工程を内製化し、将来、塗装部門を立ち上げることで一貫生産体制の構築を目指す。今回の事業でアーク溶接機とスポット溶接機を導入し、溶接工程の内製化を図る。

導入背景

需要増にコストダウンと納期短縮

まず主要取引先の建設機械業界で溶接を必要とする製品ニーズが大きいことがある。すでに引き合い案件が多数あり、今後も需要は増加すると見込まれている。また、外注している溶接を内製化することで、コストダウンと納期短縮が図られる。さらに溶接方法や溶接箇所、強度などに関する設計提案が可能になり、単純な受注型営業から提案型営業にシフトできる。

事業成果

一貫生産による提案営業が可能

油圧シリンダーのカバー、バンドアッシーなどの溶接受注で、コストダウンと短納期が実現。カバーは数量が多く、溶接を外注していた時は樹脂コーティングのみだったが、内製化したことで収益的にもプラスになる。金属プレス、樹脂コーティングに溶接が加わったことで一貫生産が可能になり、提案型営業ができる。不具合品やクレームがなく、ユーザーの評価も高い。

企業から一言

トータルな加工を強みに受注拡大。一貫生産体制の実現を目指す

生産拠点の海外シフト、多品種少量生産など、ものづくりを取り巻く環境は劇的に変化しています。当社もその変化に対応すべく、溶接の内製化を図りました。新たな加工が可能になったことで、お客様から受注を得るだけでなく提案も行っています。また、確かなものづくりを行うには作業システムも重

実施内容

溶接機の導入と作業法の改善

平成26年4月にアーク溶接機とスポット溶接機の2機種を導入。それに応じて作業者の操作教育を行った。当初は3名が機械メーカーで作業方法などの実習を受け、資格を取得した。一方で作業チェックポイント（作業要領書）の作成、材料別の箱票の添付、自主検査方法としての溶接作業チェックシートの活用など、作業システムに関する改善の取り組みを始めた。



要だと考え、改善を実施。事故や不具合がなく好結果に繋がっています。今後は溶接を含めたトータルな加工ができる強みをアピールし、受注拡大を図ります。さらに将来に向けて一貫生産体制の実現を目指します。

代表取締役社長 渡邊 裕子



事業者の概要

代表者名 渡邊 裕子
設立年月 昭和49年6月
所在地 〒709-0432 岡山県和気郡和気町大中山267
TEL/FAX TEL.0869-93-3435 FAX.0869-93-3586
URL <http://www.w-vinyl.co.jp>
資本金額 1,500万円
従業員数 40人
業種 製造業（プレス・合成樹脂成型加工）
事業計画名 溶接部門の新規立上による樹脂コーティング製品の一貫生産体制の構築